

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	国語 I
科目基礎情報						
科目番号	0005		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	生産デザイン工学科 (共通科目)		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	「新編国語総合」東京書籍/「新漢字の学習」三省堂					
担当教員	岩下 祥子					
到達目標						
1. 論理的な文章を読み、構成や展開に基づいて論旨を理解し、要約することができる。 2. 文学作品を読み、人物・情景・心情の描写などを味わい、その効果を説明できる。 3. 古文・漢文を正しく音読し、リズムや韻などを味わうことができる。短歌・俳句・現代詩の表現を学び、自ら創作できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的な文章の構成・展開を正しく理解し、要約した上で、自分の意見を表すことができる。		論理的な文章の構成・展開を正しく理解し、要約できる。		論理的な文章の構成・展開を理解、要約することができない。	
評価項目2	文学作品を読み、人物・情景・心情の描写などを味わい、その効果を説明できる。また、代表的な文学作品の日本文学史上における位置を理解できる。		文学作品を読み、人物・情景・心情の描写などを味わい、その効果を説明できる。		文学作品を読み、人物・情景・心情の描写などの効果を説明できない。	
評価項目3	古文・漢文を正しく音読し、リズムや韻などを味わうことができる。短歌・俳句・現代詩の表現を学び、熟語・ことわざ・慣用句などの知識を活用し、自ら創作できる。		古文・漢文を音読し、リズムや韻などを味わうことができる。短歌・俳句・現代詩の表現を学び、創作できる。		古文・漢文を正しく音読し、リズムや韻などを味わうことができる。短歌・俳句・現代詩の表現を学び、創作することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 E④ 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。 学習・教育到達度目標 E② 日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。 学習・教育到達度目標 F① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。 準学士課程の教育目標 E④ 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。 準学士課程の教育目標 E② 日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。 準学士課程の教育目標 F① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。						
教育方法等						
概要	社会生活に必要な国語の理解能力・思考力・鑑賞力を養い、心情を豊かにして、言語活動の向上を図ることを目的とする。授業では現代文、古文、漢文を読解することで、言語文化に対する関心を深め、多角的な視点で考える力を養う。また、語句学習・漢字学習を通して基本的な知識を身につけ、表現力・文章力を磨く。					
授業の進め方・方法	次回学習する単元を予習してくる。配布するプリント類を整理すること。問いに対して簡潔明快な答えで応答すること。					
注意点	辞書類・国語便覧を活用し、積極的に疑問を投げかけてほしい。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標		
		1週	ガイダンス	授業の目標と概要の説明。国語を学ぶ意義について述べるができる。		
		2週	随想 (1)	随想を読み、構成を説明できる。		
		3週	随想 (2)	随想を読み、筆者の主張・感じ方を説明できる。		
		4週	表現	グラフや表、図解などの資料を分析し、自分の考えを文章で表現する。		
		5週	評論 (1)	評論を読み、冒頭の構成を説明できる。		
		6週	評論 (2)	評論を読み、筆者の主張の展開を整理し、説明できる。		
		7週	評論 (3)	評論全体の論の展開を簡潔に説明し、結論を述べるができる。		
	8週	中間試験	1～7 週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を確認する。			
	2ndQ	9週	試験解説 小説 (1)	試験の内容を理解し、不正解だったところはやり直しをして理解する。 小説の作者と作品成立について説明できる。		
		10週	小説 (2)	小説の第 1 段落を読み時間、空間、人物について説明できる。		
		11週	小説 (3)	第 2～3 段落を読み、登場人物の心理と小説の表現を捉え説明できる。		
		12週	小説 (4)	第 3～4 段落を読み、小説の主題を説明できる。		
		13週	短歌・俳句 (1)	近代短歌・俳句の概要を説明できる。		
		14週	短歌・俳句 (2)	作品の鑑賞・読解を述べるができる。		
15週		期末試験	9～14 週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。			

		16週	試験内容の解説	試験の内容を理解し、不正解だったところはやり直しをして理解する。
後期	3rdQ	1週	評論（１）	評論全体を読み、要約できる。 第１段落の内容を説明できる。
		2週	評論（２）	第２，第３段落の展開を説明できる。
		3週	評論（３）	第４段落を読み、評論全体を通しての筆者の主張を説明できる。
		4週	言語活動	スピーチ原稿を考え、自分の主張を分かりやすく聴者に伝えることができる。
		5週	古文（１）	古文読解のための基本を学習し定着させる。
		6週	古文（２）	作品の年代・概要を説明することができる。
		7週	古文（３）	作品内容を文法、表現に即して正しく理解し、説明できる。
		8週	中間試験	１～７週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
	4thQ	9週	古文（１）	作品の年代・概要を説明することができる。
		10週	古文（２）	作品内容を文法、表現に即して正しく理解する。
		11週	漢文（１）	漢文の訓点、返り点など基本的な訓読・書き下しの規則を覚える。
		12週	漢文（２）	作品の成り立ちを説明できるようになる。 漢文訓読、書き下しが出来るようになる。
		13週	漢文（３）	訓読文から現代語訳ができるようになる。
		14週	漢文（４）	漢文と日本語文化との関わりについて学び、理解する。
		15週	期末試験	９～１４週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
		16週	試験内容の解説	試験の内容を理解し、不正解だったところはなぜ不正解だったのかを考える。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	1	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	1	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	1	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	1	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	1	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	1	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	1	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	1	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	1	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	1	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	1	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	1	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	1	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	1	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	1	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	1	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	1	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰返し、ボディランゲージなど)。	1	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	1	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	1	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	1	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	1	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	1	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	1	

				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	1	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	1	

評価割合

	試験	演習・レポート・相互評価 ・小テスト等		合計
総合評価割合	60	40	0	100
基礎的能力	60	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0